



本棚越しに見える授業風景。図書館2階の壁際に並ぶ教室はガラス張りで、館内を通り抜けて入室する



# 知の館

## 大学図書館を巡る

\*毎月第4木曜朝刊に掲載予定です。

### ■ 神奈川大



■大学概要 働く青年たちのための学校「横浜学院」として1928年(昭和3年)に開学した。全国から優秀な学生が集まり学費を気にせず学べる学校にしようと、創立まもない33年から、合格者に返還不要の奨学金を支給



する「給費生試験」を各都市で毎年実施している。横浜(横浜市神奈川区)とみなとみらいの二つのキャンパスにある計11学部で約1万8000人が学ぶ。強豪として知られる駅伝チームは、年明けの第100回箱根駅伝に2年ぶり54回目の出場が決まっている。

■図書館 みなとみらいと横浜キャンパスに各一つがある。みなとみらいキャンパスの開館時間は午前8時~午後9時45分。学外者の図書館利用について現在、検討している。横浜キャンパスの図書館(蔵書数約116万冊)は有料の会員登録により高校生や18歳以上の社会人も利用できる。

# 書架 キャンパス中に

## アプリでどこでも貸し出し

キャンパス全体を図書館にする。そんな心意気が伝わってきた。

2021年4月に開設された神奈川大みなとみらいキャンパス(横浜市西区)。横浜港に面した再開発地区の一角、大手企業の本社や開発拠点となっている高層ビル群の中に立つ21階建ての建物全体がキャンパスだ。設計に携わった大学職員の石毛良和さん(58)は「地区唯一の総合大学。社会人との連携や、近隣住民も利用できる図書館の設置が期待されていた」と振り返る。1階にはカフェやレストラン、観光相談のカウンター、ラウンジなどがある。学外にも開放されており、ショッピングモールのような趣の中で目に入るのが、あちこちに設けられた書架だ。収められている計約3800冊は2階と3階にある図書館の蔵書。スペースが限られるビル内とい

う特性上、館内だけで収容しきれない書籍を、館外の各階に分散して並べた。現在の蔵書約16万冊のうち、館外にあるのは計約1万9000冊。図書館に学外者は入れないが、1階の蔵書は自由に閲覧できる。体育館の近くにはスポーツに関連した書籍を置くなど、学生の「学び」とも結び付くよう意識した。



スマホのアプリを使えば、どこでも貸し出し手続きができる

1階から吹き抜けの階段を上ると、図書館にたどり着く。座席数は約250。コンセントを備えたカウンター席や、グループ学習向けのテーブル席など、使い心地が良さそうだ。ガラス張りの教室もあり、書架に並ぶ本と本の間から授業の様子が見える。

職員の高嶺徹さん(39)は「高層ビルでは、階をまたぐ交流が難しいので、吹き抜けやガラス張りの壁を多用して、お互いの姿が見えるようにした。図書館を通らないと行けない教室もあり、行き来するだけで友人や本との出会いが生まれる」と話す。

課題は、各階に散らばっている本の管理だった。全ての本にICチップを埋め込み、スマートフォン専用アプリでバーコードを読み取ることで、キャンパス内のどこでも貸し出し手続きができる仕組みを導入した。学生は2階の図書館カウンターに立ち寄り、ことごとく、そのままキャンパスの外に本を持ち出せる。海外での実用例を参考に知恵を絞った成果だ。

「アプリのおかげで、気軽に本を借りられる」。国際日本学部3年の千葉朱莉さん



左から棟目が、みなとみらいキャンパス。周辺には高層ビルが立ち並び、街は夜も明るい

「アプリのおかげで、気軽に本を借りられる」。国際日本学部3年の千葉朱莉さん

文・恒川良輔 写真・佐々木紀明

## 学長に聞く

興味の裾野広げる場



否定されましたが、視点の新鮮さや考え方の面白さは色あせ

小熊誠さん(69) 学生時代は大学の図書館に入り浸っていました。その頃、手に取った柳田国男の「海上の道」は衝撃的でした。日本人のルーツは、通貨として使われていた宝貝を求めて中国から沖縄・宮古島、そして九州に移り住み、米作を伝えた人たちではないかと書かれていました。推論は後の研究で

ると、屋外に貼り出されていたため散逸しやすく、今では収集が難しい資料だ。

風刺画には、革命を象徴する赤い帽子をかぶった名物キャラクターの「デュシェーヌ親父」が頻りに登場する。講和を進めた首相をわしづかみにするなど、行動はなかなか過激だ。荏原さんは「フランスに今もある風刺新聞の源流を思わせる。革命の熱気や民衆の怒りが伝わってくるようだ」と話している。



## パリ・コミューンの風刺画

至宝

1871年、普仏戦争の講和に反対したパリの民衆が一斉に蜂起して政権を握った。史上初の労働者政権と呼ばれる「パリ・コミューン」だ。横浜キャンパスの貴重書庫には、当時の政治風刺画や新聞など約1500点が収蔵されている。図書課の荏原直子さん(61)によ

ず、民俗学の研究者になった今も繰り返し読んでいます。図書館は興味の裾野を広げてくれる場所です。授業の合間に、ぶらりとのぞいてみてください。生涯の友となる本と出会えるかもしれません。

読売新聞オンラインでは、記者が訪ねた大学キャンパスと図書館をスライドショーで紹介しています。

